

東洋経済CSR調査・総合調査ご回答説明

2023年7月24日（月）

株式会社東洋経済新報社

村山 颯志郎

1. 東洋経済CSR調査の概要
2. 東洋経済CSR調査（総合調査）の概要・ご回答方法
3. 東洋経済CSR調査ご回答のポイント
4. 東洋経済CSR評価の特徴
5. 質疑応答

● 目的

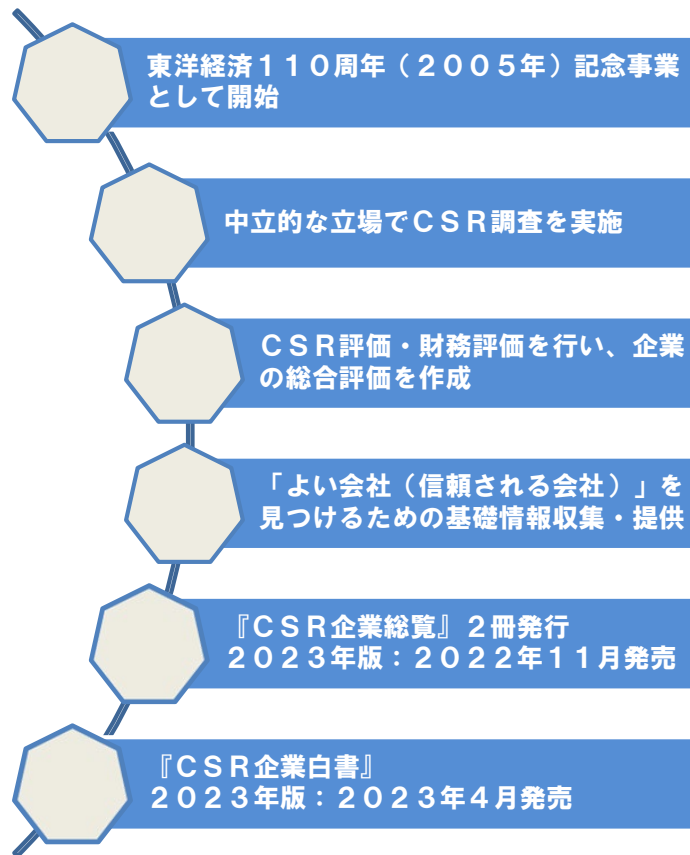
- 以下の情報をご理解いただく（基本的な考え方の共有）
 - 東洋経済CSR調査・評価の概要
 - 総合調査と基礎調査の違い
 - 説明資料などの存在
 - 具体的な回答のポイント

● 主な対象

- 総合調査の回答を検討されている企業のご担当者様
- これまで総合調査ご回答いただいております、
回答内容のブラッシュアップを検討されている企業のご担当者様

- 1. 東洋経済CSR調査の概要**
2. 東洋経済CSR調査（総合調査）の概要・ご回答方法
3. 東洋経済CSR調査ご回答のポイント
4. 東洋経済CSR評価の特徴
5. 質疑応答

東洋経済CSR調査の特徴



CSR企業総覧 編集・制作



掲載情報

- 会社基本データ
- CSR&財務評価・格付け
- CSR全般
- ガバナンス・法令順守・内部統制
- 雇用・人材活用
- 消費者・取引先対応
- 社会貢献
- 企業と政治の関わり
- 環境

ランキング・集計表



東洋経済 ONLINE



集めたデータはすべて掲載

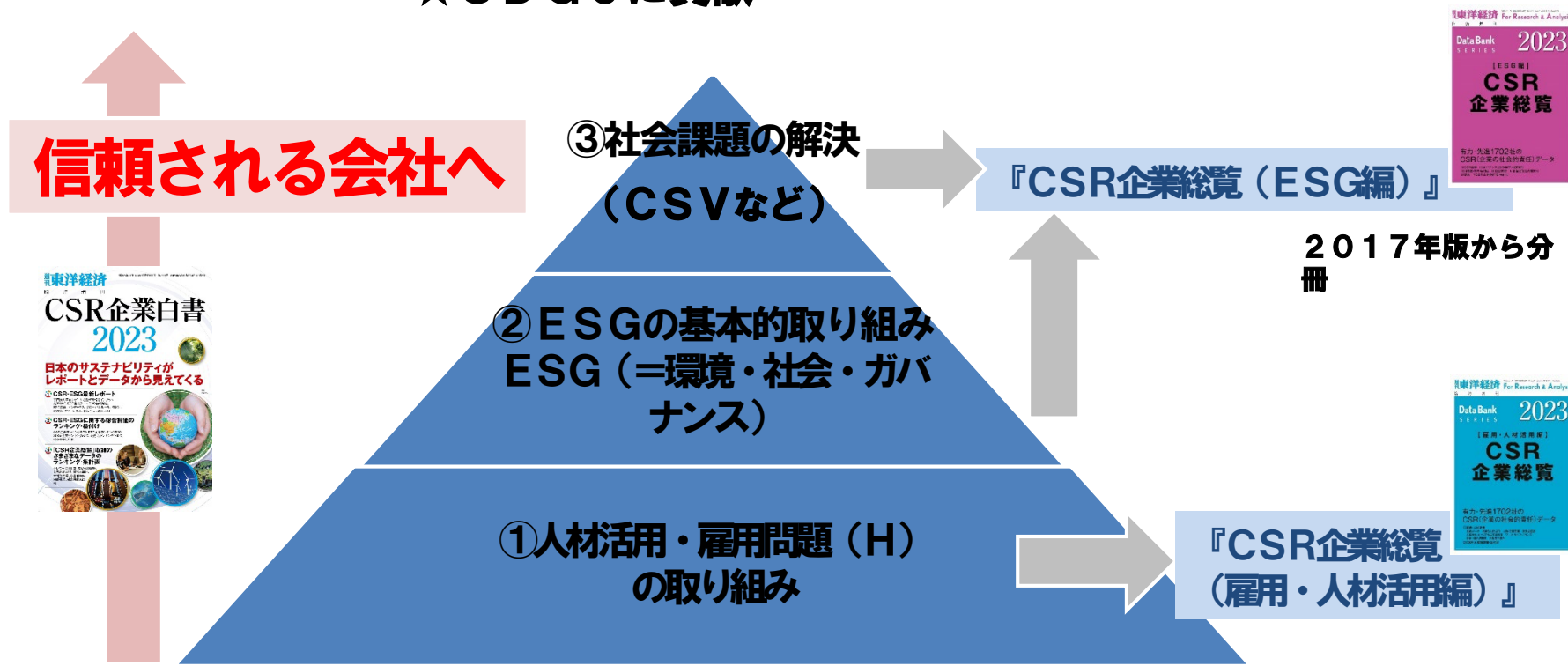
- 中立的な立場である経済出版社として、『CSR企業総覧』という刊行物を発行（「報道」としてのCSR情報）
- 横並びで比較可能なCSR情報を収集・整備
 - 基本的かつ業種横断的な情報（方針・制度・取り組み・数値情報）
- CSR関連の評価・分析手法の開発と結果の公表
 - 「よい会社」「信頼される会社」を見つける
- 刊行物・データを通じて、収集した情報・評価を学術研究、株式投資、企業研究など幅広い分野で活用できるように提供していく



日本のCSR活動の基礎情報として、その発展に寄与する。

東洋経済が考える CSR活動に重要な3つの視点

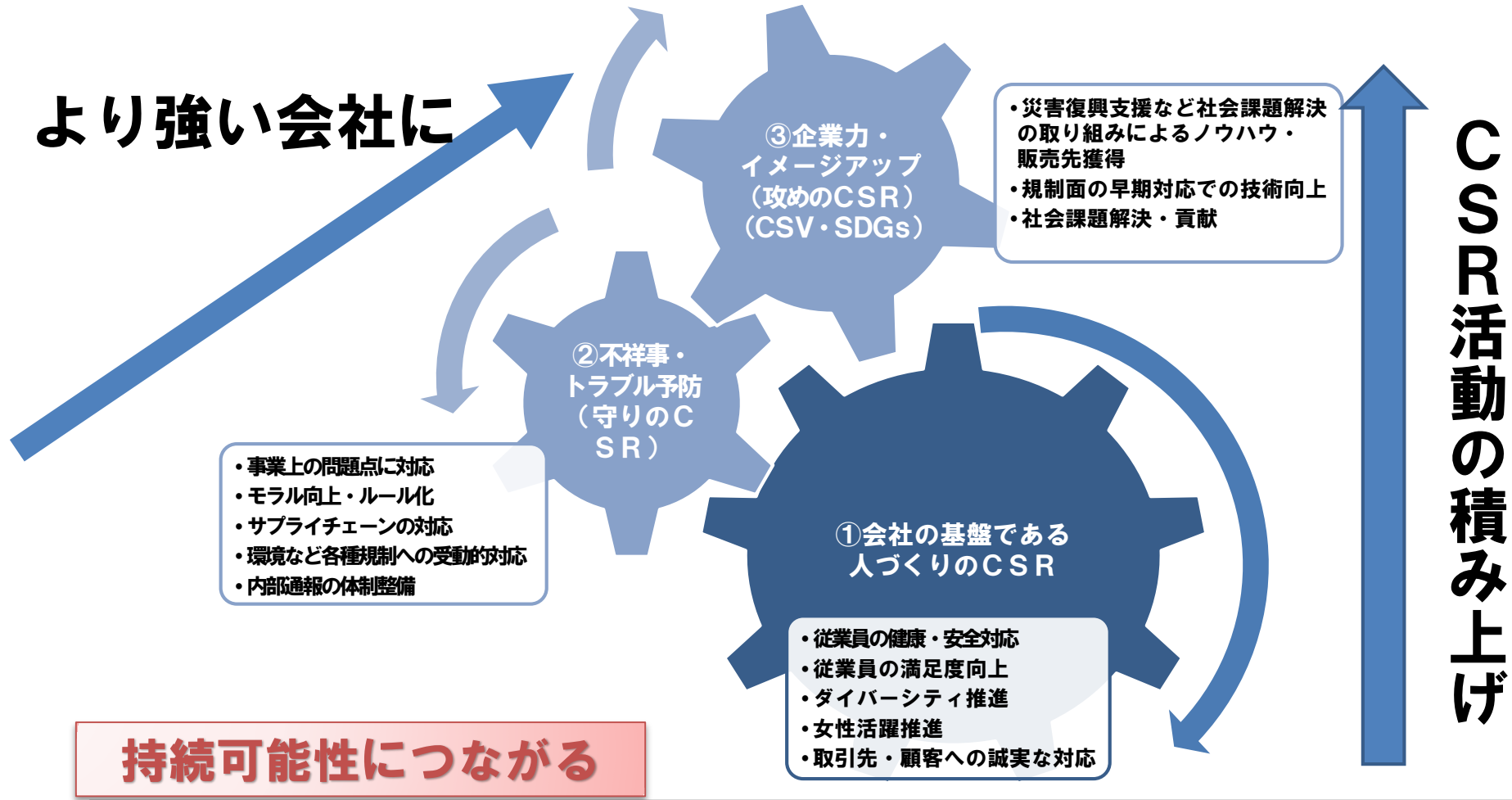
★SDGsに貢献



「ESG-H」という枠組みが基本

- ①会社に関わるさまざまな人を大切にしているか？
- ②事業活動で与える負荷を減らすよう努力しているか？
- ③社会課題解決に貢献しようとしているか？

東洋経済が考える CSR活動が企業に与える好循環



この全体の動きがわかるような調査・評価を目指す

協力・参加	主な内容
プラチナキャリア・アワード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発足に協力。第3回目以降はデータ提供という形で協力を継続 ・ プラチナキャリア・インデックスが開始
読者・ユーザーとの対話	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金融機関（ファンドマネージャー、銀行など）、大学教授、コンサルティング会社など ・ 大学の寄付講座
グリーン購入大賞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第18回（2017年）から後援
その他個別でご協力・情報交換	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可能な範囲での公式・非公式での意見交換会の実施 ・ 依頼があればセミナー講師なども



外部との関わりで独りよがりにならない調査に

東洋経済CSRデータの提供先



どこで見られるのか？



CSR企業総覧 CSR企業白書

- 紙・電子書籍で発行
- 『CSR企業総覧』オンラインサービス
- 図書館などの購入
- 日経テレコン、G-searchなどでも閲覧可能

デジタルコンテンツ・ライブラリー (DCL)

- 東洋経済のほとんどの媒体がWebで見られるサービス
- 学生は自宅やスマホからも閲覧可能
- 全国130以上の大学・公立図書館・企業で導入
- 首都圏の主要私立大学を中心に拡大中
- 就職や研究に利用

東洋経済CSRデータ

- 『CSR企業総覧』掲載情報をデータベース化
- テキストデータとして提供
- 大学や調査機関、機関投資家等が利用
- ランキングデータも

東洋経済ESGオンライン

- 2016年1月からサービス開始
- Webサービス
- 主に機関投資家などが対象
- CSR以外に役員、CG報告書などのデータも
- 検索も可能

- 調査に回答することで、CSR活動の整理ができる
 - 評価内容を確認して、自社の課題が見えてくる
 - 他社と自社の活動を横並びで比較できる
 - 説明会・セミナーなどでインプットができる
- ⇒ 「東洋経済サステナビリティフォーラム」

回答企業をメンバーとする、回答企業への情報提供やさまざまなコミュニケーションを行うための組織（2018年2月開始）

<http://www.toyokeizai.net/csr/sustainabilityforum/>

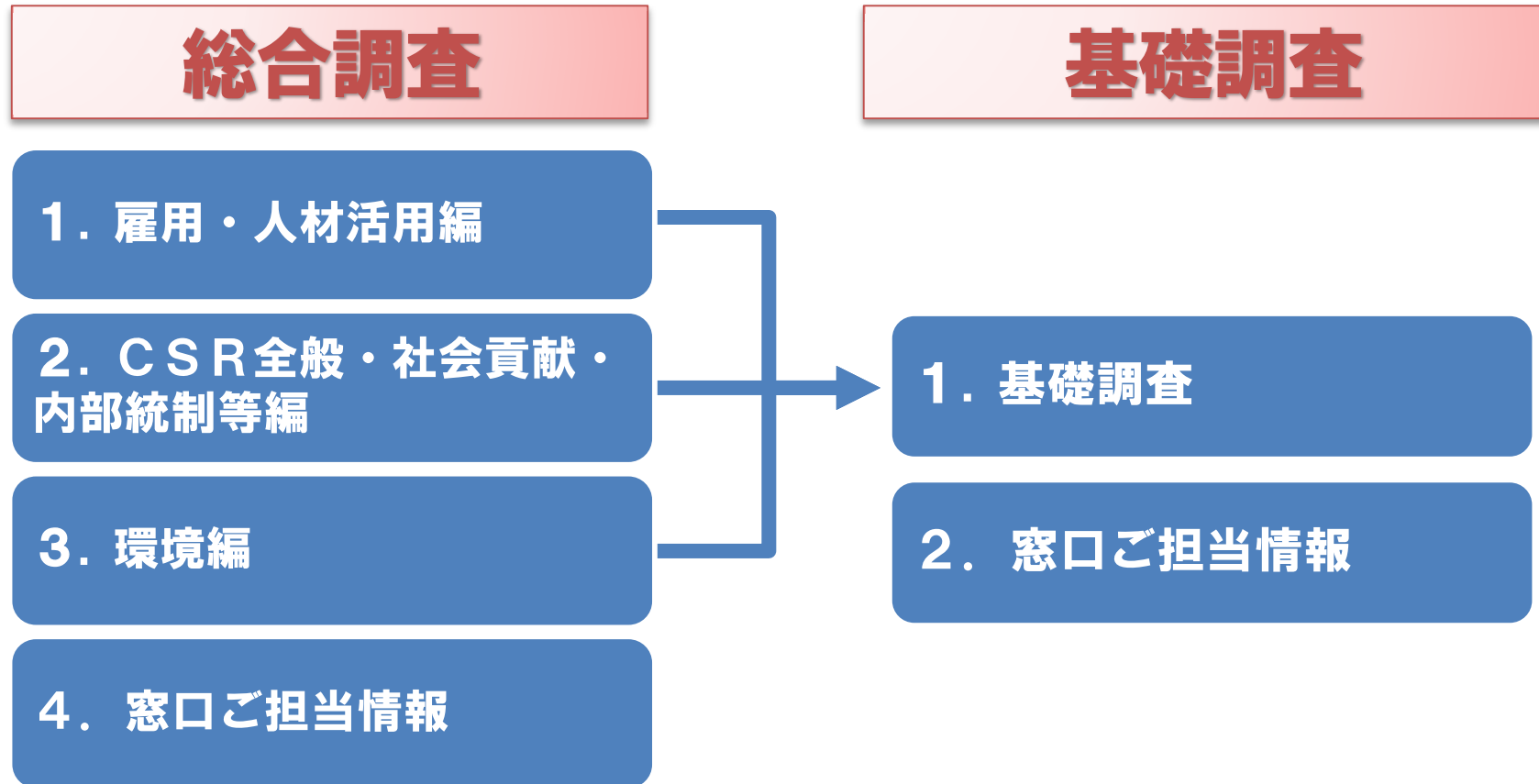


東洋経済
サステナビリティ

● 有用な情報提供を実施。是非ご参考に

サービス名	主な内容
<p>CSR File ダウンロードシステム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去13年分の『CSR企業総覧』掲載ページ ・ 過去8年分のCSR企業ランキング報告書 ・ PDF調査票直近年度分（調査用） ・ CSR企業ランキング上位800社 ・ 格付け一覧 ・ 業種別集計表 ・ 各社固有のID・パスワードを使用。ID追加やPW変更なども可能 ・ 各種レポート
<p>CSR調査・評価説明会 個別質問会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年1回開催の説明会 ・ 個別にご質問いただける毎月開催の個別質問会
<p>東洋経済CSRセミナー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 優先参加可能（一部有料）

1. 東洋経済CSR調査の概要
- 2. 東洋経済CSR調査（総合調査）の概要・ご回答方法**
3. 東洋経済CSR調査ご回答のポイント
4. 東洋経済CSR評価の特徴
5. 質疑応答



※業種・規模に関わらず共通の調査票

※紙とフォーム付きPDF調査票の2種類

※総合調査ご回答の場合は基礎調査のご回答は不要

総合調査	基礎調査
<ul style="list-style-type: none"> 対象：継続回答企業や大企業、CSRに積極的な企業など 「雇用・人材活用編」「CSR全般・社会貢献・内部統制等編」「環境編」の3つで構成 ※原則3つ揃ってのご回答をお願い 企業のCSRの取り組みを幅広く調査することが目的 項目数が多い 「CSR評価」および「CSR企業ランキング」の対象となる 	<ul style="list-style-type: none"> 対象：初回回答企業や比較的小規模な企業など 総合調査から主要項目を抜粋。やや人材関連の項目が多い傾向 ＝項目は総合調査にすべて含まれている 企業の基礎的なCSRの取り組みを調査することが目的 項目数は（比較的）少ない 「CSR評価」および「CSR企業ランキング」は対象外。「CSR基本評価」の対象

- 「総合調査」「基礎調査」どちらでもご回答可能
- ただし、「CSR企業ランキング」など財務データを組み入れた評価の対象になるには、「財務評価」に必要なデータを別途ご回答いただく必要がある
※財務データは評価にのみ使用。外部には非公開（評価データは公開）
- 詳細は「東洋経済CSRオンライン」の調査ページに掲載
<https://biz.toyokeizai.net/-/csr/research/No19-2023.html#8>

昨年ご回答企業

- 紙：窓口ご担当者に郵送
- PDF：CSR Fileダウンロードシステム

昨年未回答企業 (一昨年回答)

- 紙：窓口ご担当者に郵送
- PDF：CSR Fileダウンロードシステム
※今回ご回答いただける場合に限りID・PWをお知らせ

新規回答企業

- 紙：上場企業のみ、小社「四季報」ご担当窓口の方に郵送
- PDF：東洋経済CSRオンラインに掲載

- 「東洋経済CSRオンライン」調査ページ

<https://biz.toyokeizai.net/-/csr/research/No19-2023.html>

- 調査終了後は関連資料のリンクをご用意
- 必ずご覧いただきたいのは「**ご回答の手引き**」「**記入例**」
- **PDF**調査票回答場合は「電子調査票のご回答方法」もご参照ください

- 「東洋経済CSR調査・評価説明会」掲載資料

https://biz.toyokeizai.net/-/csr/briefing/2023CSR_Research.html

- 毎年開催（**2023年4月25日・28日**開催）。重要な資料もご説明
- **主な質問・回答**、CSRデータ各種集計表、
CSR企業ランキング得点業種別集計表、CSR企業ランキング報告書見本
CSR企業ランキング評価項目一覧・ポイント

実際の画面でご説明します。

- 東洋経済CSRオンライン

<https://biz.toyokeizai.net/-/csr/>

- 調査ページ（前回調査）

<https://biz.toyokeizai.net/-/csr/research/No18-2022.html>

- 東洋経済CSR調査・評価説明会

https://biz.toyokeizai.net/-/csr/briefing/2023CSR_Research.html

- 紙の調査票

⇒ 同封している返送用封筒（緑）に封入して郵送

- フォーム付きPDF調査票

⇒ 下記調査窓口まで、メールに添付して送信

※必ずフォームに入力可能な状態でご返送ください

※**フォーム付きPDF調査票を印刷してのご回答はご遠慮ください**

東洋経済新報社CSRデータ開発チーム（csr@toyokeizai.co.jp）

- 総合調査と基礎調査、両方回答しないといけないのか
 - ⇒ 総合調査をご回答いただく場合、基礎調査のご回答は不要
※両方お送りいただいた場合、基礎調査は参考資料とします
- P D F 調査票が編集・保存できない、文字が化けている
 - **Adobe Acrobat**以外のソフト等でP D Fを編集している場合が多い。
ブラウザ（**Chrome**、**Edge**）や別ソフト（**JUST PDF**、**CubePDF**等）
⇒ 利用環境や社内セキュリティを確認・調整していただく
- E x c e l や W o r d ファイルの調査票が欲しい
 - ⇒ 現状未対応。今後はW E B調査などを含めて検討を進めていく

1. 東洋経済CSR調査の概要
2. 東洋経済CSR調査（総合調査）の概要・ご回答方法
- 3. 東洋経済CSR調査ご回答のポイント**
4. 東洋経済CSR評価の特徴
5. 質疑応答

- 質問のタイプは主に4つ
 - 単一選択肢、複数選択肢、数値、テキスト
- 昨年回答があった場合、調査票には昨年のデータを表示
(一部、紙の調査票のみ緑字で表示)
 - 昨年基礎調査回答の場合、該当項目を印字した総合調査を送付
- 基本情報の調査のため、できるだけ回答する
 - 基準等が異なる場合などは「注記」を活用

- 選択肢はどちらか迷ったらよい方を選ぶ
- 方針等は完全一致でなくても社訓などを含めて幅広く捉える
- 取り組み内容は、小さなことも含めてできるだけ回答する
- 数値項目はできるだけ回答する。
一部項目では概数でもOKとしている。

●どのように回答内容が掲載されるのかわからない

- 前回以前の調査ページにCSR企業ランキング上位企業、独自調査（公開情報のみ）企業の誌面サンプルを掲載
- 掲載イメージの大枠をご理解いただける。記述や回答方法のご参考となる資料

[English](#)

■東洋経済CSR調査

- [第19回CSR調査（2023年調査）](#)
- [第18回CSR調査（2022年調査）](#)
- さらに過去分は[こちら](#)

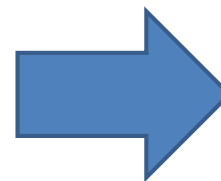
■SDGs企業ランキング

2022年6月27日公開
2023年5月2日最終更新

[トップへ戻る](#)

CSR企業総覧2023年版

- [社名索引（雇用・人材活用編 ESG編）](#)
- [調査の説明・データの見方（総合版 雇用・人材活用編 ESG編）](#)
- [CSR企業ランキング（評価項目一覧・ポイント 得点業種別集計表）](#)
- [財務格付け一覧（PDF）](#) [CSR格付け一覧：抜粋版（PDF）](#)
各社のCSR格付けは『CSR企業総覧』等をご覧ください。
※全社版のご提供（有償）は[データベースサービス窓口](#)にお問い合わせください
- CSR企業総覧2023年版サンプルページ（CSR企業ランキング上位企業、未回答独自調査）
 - ▶ 1位 [4901 富士フイルムホールディングス（PDF）](#)
 - ▶ 2位 [9432 日本電信電話（PDF）](#)
 - ▶ 3位 [4519 中外製薬（PDF）](#)
 - ▶ 独自調査（公開情報から：PDF）[1911 住友林業 CSR企業ランキング報告書](#)
 - ▶ 独自調査（公開情報から：PDF）[4755 楽天グループ CSR企業ランキング報告書](#)
 - ▶ 独自調査（公開情報から：PDF）[6861 キーエンス CSR企業ランキング報告書](#)
 - ▶ 独自調査（公開情報から：PDF）[7201 日産自動車 CSR企業ランキング報告書](#)
 - ▶ 独自調査（公開情報から：PDF）[7211 三菱自動車 CSR企業ランキング報告書](#)
 - ▶ 独自調査（公開情報から：PDF）[7270 SUBARU CSR企業ランキング報告書](#)
 - ▶ 独自調査（公開情報から：PDF）[9001 東武鉄道 CSR企業ランキング報告書](#)



- 「～といった内容でいいか」 「～のほうがかぶさわしいか」
 - 基本的には各社のご判断におまかせ
 - 企業として読者にどんなメッセージを伝えるかという視点も重要
- **どの範囲で集計したらいいか**
 - 特記のない限り単体ベース。純粹持ち株会社の場合は、主たる事業会社
 - ただし、基本的には各社のご判断にお任せ。法定で定められた算出方法がある場合などは別途指定
- **開示の基準を厳密にしてほしい**
 - 開示のしやすさと厳密性のバランスを取りながら質問を設定している
 - ランキングなどを発表することで収斂していく傾向にある

1. 東洋経済CSR調査の概要
2. 東洋経済CSR調査（総合調査）の概要・ご回答方法
3. 東洋経済CSR調査ご回答のポイント
- 4. 東洋経済CSR評価の特徴**
5. 質疑応答

「信頼される会社」
をCSRデータを使
って見つける

- 株式投資・就職先として勧められる会社
- 「信頼される会社」像を考える

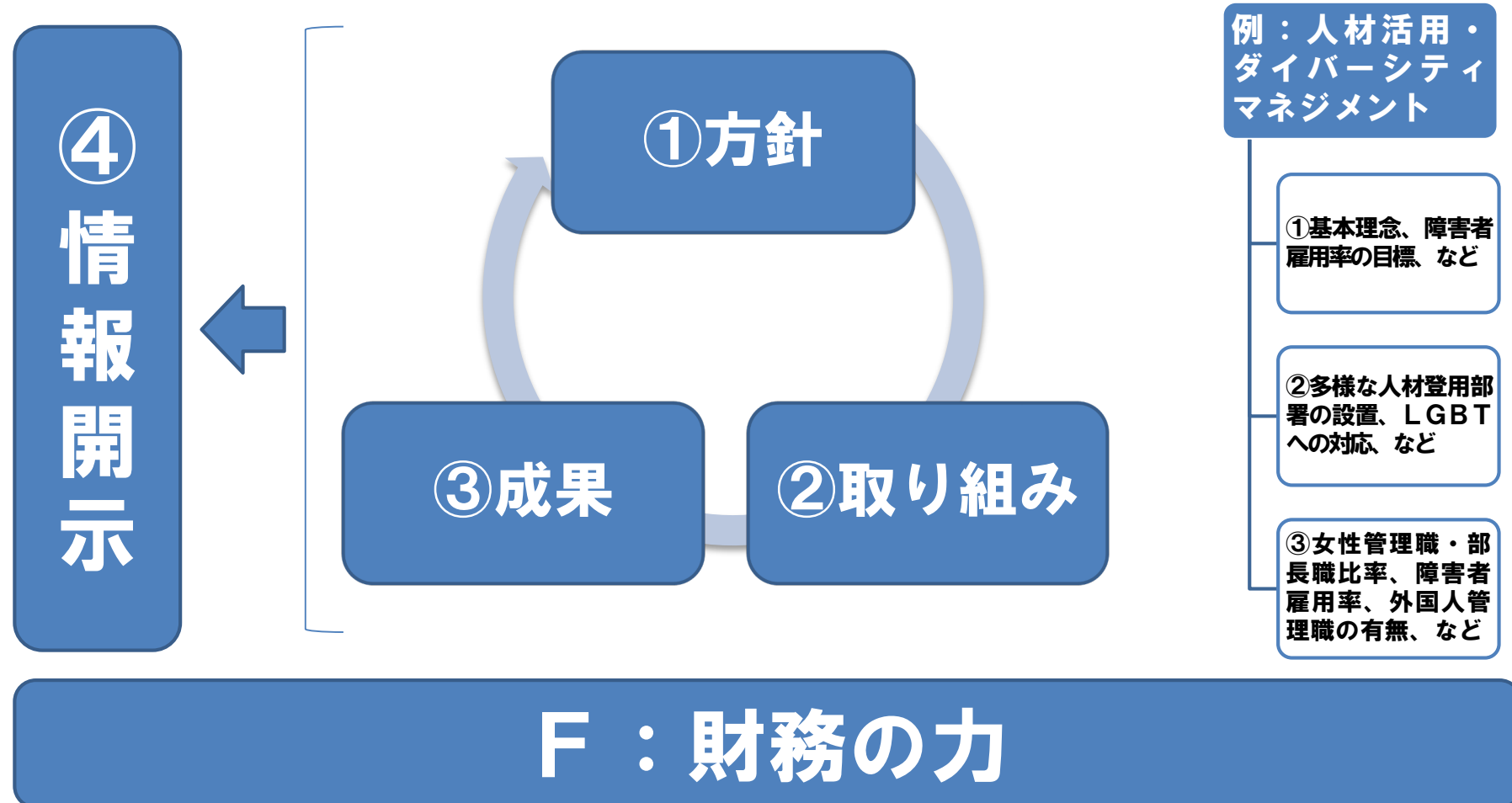
定量評価による企業
評価の仕組み作り

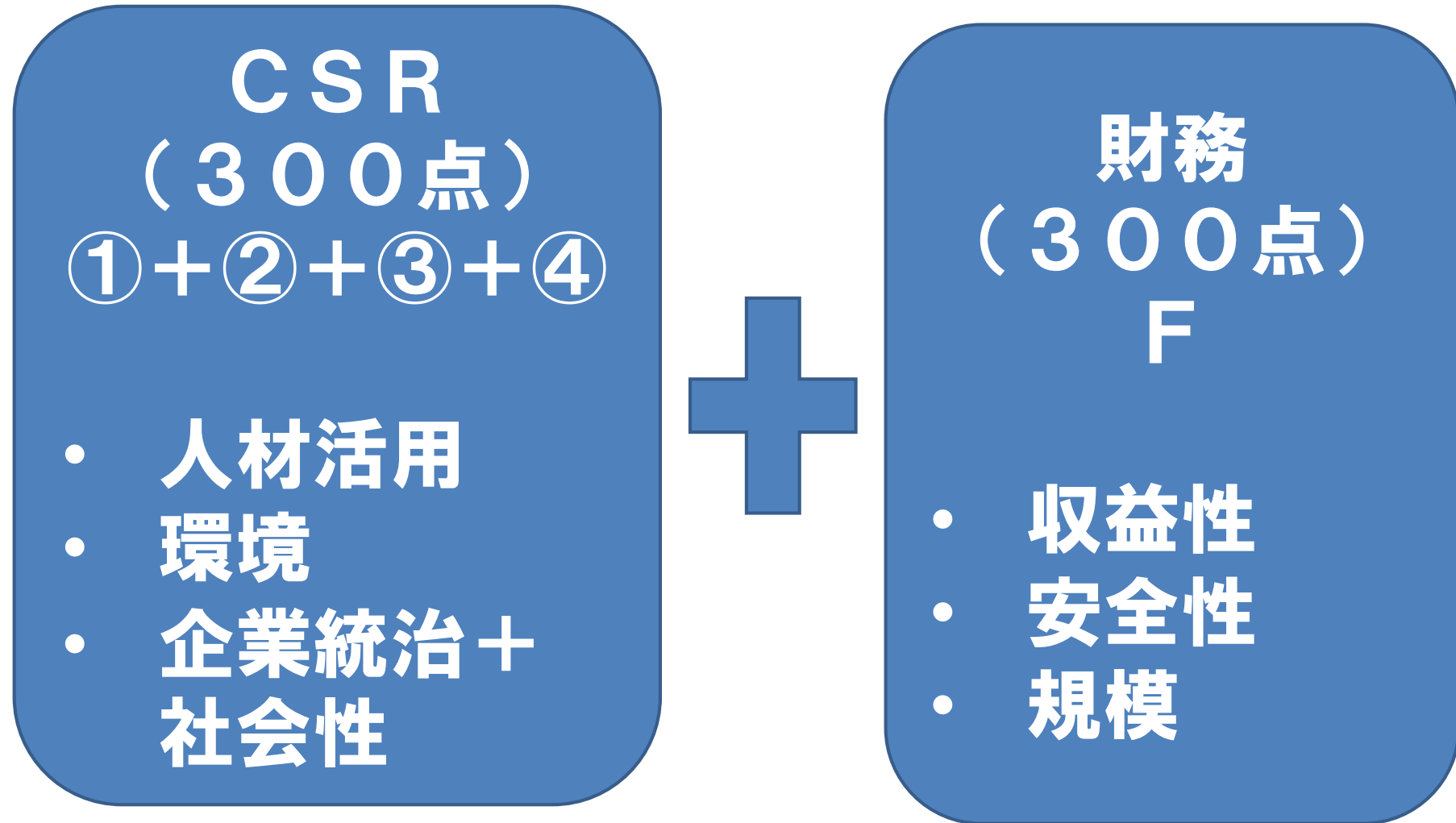
- 数値情報など定量評価での企業評価
- 財務評価とあわせた総合評価

各社のCSR活動
を見る際の参考情
報に

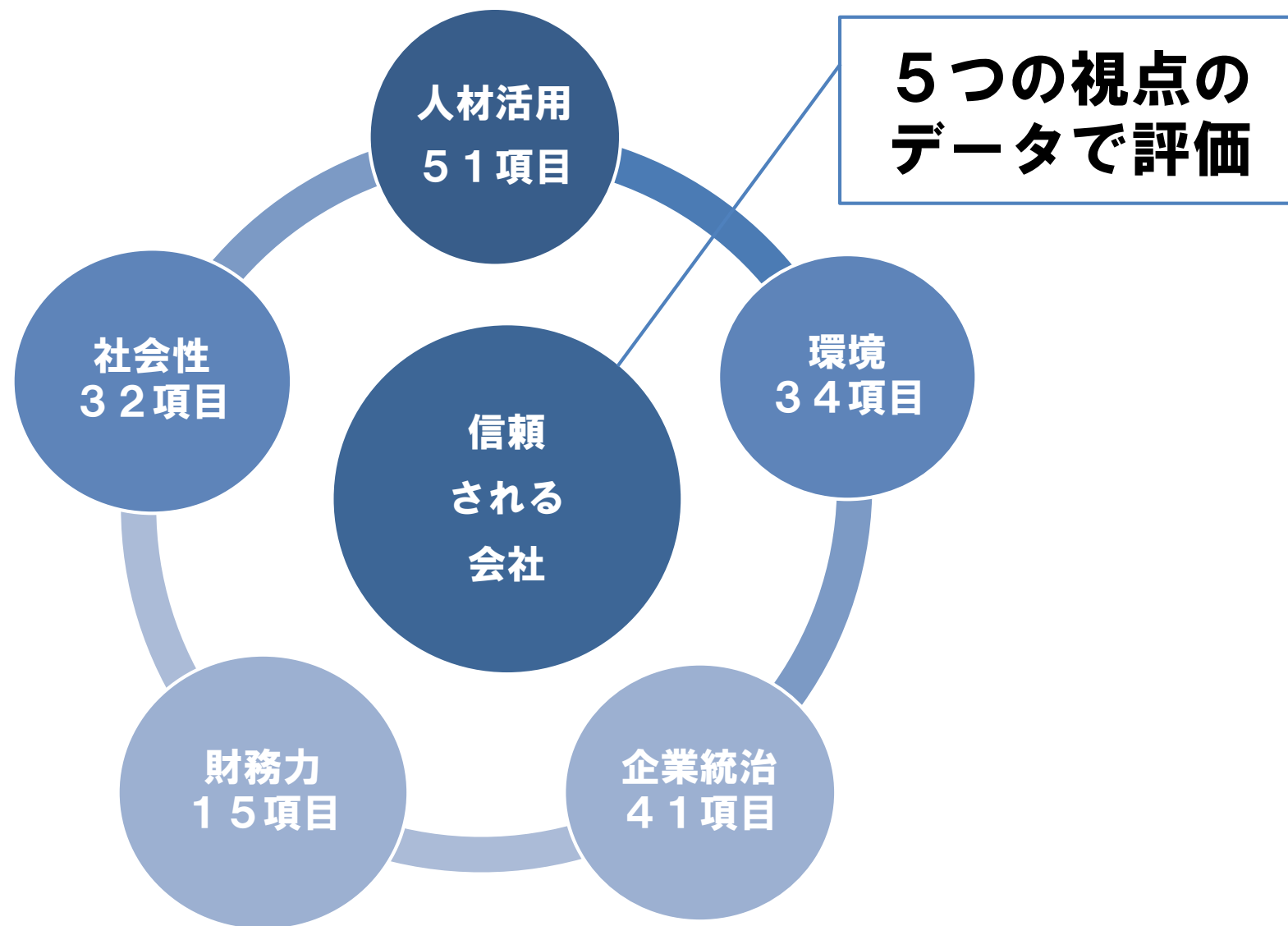
- 各企業の取り組みの参考指標のひとつに
- CSR情報を見る際の参考情報（「ものさし」のひとつ）に

①から④までと財務の力が両立した会社





CSR企業ランキング：5つの視点 (2023年版)



全業種を同じ土俵で見っていく

幅広い分野を対応

基本的な取り組みを重視

数値で把握できる項目を積極的に取り入れる

- 各評価項目の最大得点は**1～3**点を中心
- 基本的に、現在の実力を評価する
- 数値項目は「率」と記載していれば、「率」で評価。「人数」などと記載していれば、その「実数」で評価
- 重要な項目は率と実数（人数等）の両面で評価
育児休業取得者＋育児休業取得率など
- 数値項目は全社の平均値などを参考に得点ルールの見直しを定期的を実施
障害者雇用率、女性管理職比率など
- 文章項目は基本的に該当する内容が書いてあれば得点

⇒ 「評価項目一覧」にポイント・得点を記載

ランキングはトップの基礎得点が基準

- 格付けは基礎得点の段階で作成
- ランキングはトップの基礎得点を基準（100点になる）
- 基礎得点の最高点は毎年変化
- トップの基礎得点が上昇すると、昨年と同じ基礎得点では評価は下がる



★2000年	基礎得点	得点
A社（1位）	80	100
B社（■位）	50	62.5

倍率（1位のA社が基準）
 $100 \div 80 = 1.25$ 倍
 B社得点 = 50×1.25 （62.5点）

★2001年	基礎得点	得点
A社（1位）	90	100
B社（■位）	50	55.6

倍率（1位のA社が基準）
 $100 \div 90 = 1.1111$ 倍
 B社得点 = 50×1.1111 （55.6点）

順位	前年	社名	総合 (600)	人材活用 (100)	環境 (100)	企業統治 +社会性 (100)	財務 (300)
1	5	富士フイルムHD	574.0	92.4	94.2	97.8	289.6
2	1	日本電信電話	572.9	95.2	100.0	100.0	277.7
3	6	中外製薬	572.0	91.4	90.7	95.1	294.8
4	2	NTTドコモ	570.2	93.3	98.8	97.3	280.8
5	12	積水ハウス	570.0	85.7	96.5	97.8	290.0
6	4	三井物産	568.9	95.2	96.5	97.3	279.9
7	10	花王	567.9	94.3	89.5	96.2	287.9
8	3	KDDI	567.6	91.4	95.3	98.9	282.0
9	62	NTTデータ	567.3	92.4	97.7	97.3	279.9
10	7	JT	566.7	88.6	94.2	97.3	286.6

上位はどのような会社か？

多くの人が「優良」と認める会社

- 業績が安定している
- CSRの主要テーマを網羅している・意識している
- 指標等の数値上昇に努力している
- 幅広くCSR情報を開示している

幅広く活動・開示できない会社の評価は低い

- 幅広く活動・開示できない非製造業・中堅は得点が低い傾向
- 環境分野の活動・開示レベルがランキングに影響
(開示可能な情報も多い)



業種内順位や得点の成長率など別の見方もある

- 基礎調査程度の内容で基本的なCSR評価を行うことが目的
- 少ない情報で基本的なCSR評価を作成
- 基礎調査の項目（18項目）で評価を実施
基礎調査の項目は総合調査にすべて含まれる
- 今のところ人材活用の項目が中心
- 将来的には役員情報、大株主情報、四季報情報などを組み合わせて評価を行いたい

- ①方針、②取り組み、は多くの企業が回答しているため、未回答は差がつきやすい
- 取り組み内容は妥当なものであればすべて満点。
できるだけ該当するものを社内で調べていただきたい。
(情報の把握力はCSR活動を進めるために必須)
- 選択肢はなるべくいい方にならないか検討する
- 数値項目は開示ポイントのウエイトが大きい項目が多い
未回答はもっとも点数が低くなる。

- 評価してほしいが、回答内容の公表はしないでほしい
 - CSR情報の「開示」が重要だと考えており、評価には『CSR企業総覧』掲載情報のみを使用。掲載希望しない場合、該当項目のデータは削除（評価しない）
- 業種によって偏りがある項目がある
 - 調査全体で見るとバランスが取れていると考えている
- 記述項目の内容は評価されるのか
 - 原則、「妥当な内容」が記載されていれば問題ない。
現状、**CSR企業総覧**に掲載されている内容であれば「妥当」と考えている

- 新規項目を評価に使うのか

- 調査項目はすべて評価候補となる。しかし、開示状況を確認しつつ徐々に組み込んでいく場合が多い

- 数値項目のしきい値は毎年変更になるのか

- 全体の平均値や分布を参考に得点化。これらが変われば変更する場合が多い

2023年調査のスケジュール

年月	内容
2023年6月	<p>新調査項目を決定。調査票の作成開始</p> <p>調査票発送（6月下旬発送予定）</p> <p>PDF調査票作成・セット（CSR Fileダウンロードシステム）</p>
7月	<p>SDGs企業ランキング発表</p> <p>初回回答企業向け説明会</p>
8月	<p>締め切り（8月22日）。編集開始</p>
9～10月	<p>編集・入力・校正等の作業（取材なども）</p>
12月	<p>『CSR企業総覧（雇用・人材活用編）（ESG編）』2024年版発売 予定</p> <p>集計編送付</p>
2024年2月	<p>各種ランキング発表開始</p> <p>（予定）CSR企業ランキングの発表（『週刊東洋経済』）</p> <p>（予定）CSR企業ランキング報告書ダウンロード開始</p>
4月	<p>『CSR企業白書』2024年版発売予定</p>
4～5月	<p>評価・調査説明会（リアル開催？）</p>

1. 東洋経済CSR調査の概要
2. 東洋経済CSR調査（総合調査）の概要・ご回答方法
3. 東洋経済CSR調査ご回答のポイント
4. 東洋経済CSR評価の特徴
- 5. 質疑応答**